

# 認定オキュペイショナルハイジニスト模擬試験

コース 10・11・12

多肢選択式

## 《注意事項》

1. 問題形式

4肢択一式とし、問1から問5までの全5問から構成されています。

公益社団法人 日本作業環境測定協会

【問 1】

令和元年における日本の死因統計で最も多い死因は次のうちどれか。

- 1 心疾患
- 2 肺炎
- 3 悪性新生物
- 4 脳血管疾患

【問 2】

1000 人の従業員がいる事業所で、リスクが存在する条件で労働者が働いている。次のイからニのばく露について、期待損失の大きいものから順に並べたものは下の 1 から 4 のうちどれか。

- イ 年に  $1/100$  の確率で発生し、発生に伴う損失が 10 万円の期待損失。  
ロ 年に  $1/500$  の確率で発生し、発生に伴う損失が 100 万円の期待損失。  
ハ 年に  $1/1400$  の確率で発生し、発生に伴う損失が 700 万円の期待損失。  
ニ 年に  $1/10000$  の確率で発生し、発生に伴う損失が 3000 万円の期待損失。

- 1 ハーイーローニ
- 2 ニーハーイーロー
- 3 ハーニーローイ
- 4 ニーハーローイ

【問 3】

疫学調査法に関する次のイからニの記述のうち、正しい組合せは下の 1 から 4 のうちどれか。

- イ 因果関係を判断する基準として必須のものは、「時間的關係」である。
- ロ 地域間比較研究の結果の解釈には、生態学的錯誤を考慮する必要がある。
- ハ 症例対照研究では、相対危険度により疾病リスクを評価する。
- ニ 介入研究では、無作為化により情報バイアスの発生を防ぐ。

- 1 イ、ロ
- 2 イ、ニ
- 3 ロ、ハ
- 4 ハ、ニ

【問 4】

リスクコミュニケーションに関する次の記述の□□□□に入る用語として、正しい組み合わせは下の 1 から 4 のうちどれか。

「科学技術を含めて世の中のあらゆる事象には、利便性と危険性が含まれている。したがって、その危険性から市民を守るために、情報の主たる所有者である行政や□□□□は、事象の持つ利便性と□□□□を市民に伝え、ともに対応を考える必要がある。このように、対象の持つポジティブな側面だけでなく、□□□□側面についての情報、それもリスクはリスクとして公正に伝え、関係者が共考しうるコミュニケーションのことをリスクコミュニケーションという。」

- |   | イ  | ロ   | ハ      |
|---|----|-----|--------|
| 1 | 市民 | 有害性 | 有用な    |
| 2 | 企業 | 安全性 | 詳細な    |
| 3 | 企業 | 危険性 | ネガティブな |
| 4 | 市民 | 有用性 | 新しい    |

【問 5】

皮膚や粘膜等に対する刺激性の化学物質の吸入ばく露による健康障害に関する次の記述のうち、誤っているものは1から4のうちどれか。

- 1 重症度と初発症状は相関関係にある。
- 2 肺水腫をきたすものが多い。
- 3 咳、咽頭痛等の上気道症状がでる場合がある。
- 4 ばく露後、少なくとも72時間の経過観察が必要である。

模擬試験 回答 コース 10・11・12

【問 1】 3

【問 2】 3

【問 3】 1

【問 4】 3

【問 5】 1